

令和2年度に向けた検討テーマについて

● 在宅医療検討部会 ●

	ご意見（検討事項）	理由	分類
1	・地域と大学病院の連携について ・地域の病院や在宅支援を行っている立場から大学病院に望むこと ⇒どのような連携を望み解決していけるか	文京区は大学病院が4つあることが他の地域にはない特徴。大学病院は高度急性期の医療提供を進めていくにあたり、急性期の治療が終わった患者の受け入れ先を決めることに必死になっている状況。ある訪問看護ステーションでは、訪問看護師たちが自主的にチームを作り急性期病院に向いて、患者に何をしたら（準備したら）在宅にできるかなどのアドバイスをしているとのこと。大学病院や急性期病院が地域といい関係づくりができ、それぞれの機能が発揮できるようなことを考えていくことが出来たらよいと考える。	大学病院との連携
2	・医療職の方に向けた、介護保険事業所との連携についてわかりやすく解説したパンフレットの作成	大きな病院の医師や看護師など、なかなか在宅療養のイメージがつかなかったり、施設しかないと言われる方も多く見受けられる。地域包括ケアを推進していく中で、理解を深めてもらえたらありがたい。	大学病院との連携
3	・意思決定支援の周知と充実 ・ACP（アドバンスケアプランニング）・人生会議の取扱いについて	今後より進行していくと予想される多死社会の中で、病院以外の場での療養や看取りをする場面が増えていく。その中で医療や介護の充実だけでなく、本人が意思決定を形成する中での自身の希望や価値観を確認する中でより本人に寄り添った支援と連動が大切になっているため。	看取り支援
4	・がん資源マップについて	緩和ケア、在宅緩和ケア ⇒がんと診断された後、抱える不安など療養できる場所をマップ等で示し、安心感につなげていく。	看取り支援
5	・文京区民と医療機関の災害対策及び連携	文京区の災害対策はどのようになっているか知りたい。	災害時の医療連携
6	・災害時の医療提供体制	各医療機関の役割分担について情報共有を希望する。	災害時の医療連携
7	・災害時の地域医療連携について	H24年度修正版の「文京区地域防災計画」によると、区の要請を受け、小石川・文京区医師会は医療救護班を「災害時の医療救護活動の協定」に基づき編成するとあるが、具体的な病院との連携方法は明確化する必要があるだろうか。災害が増えてくる最近のため、何らかの具体的な対策を繰り返し確認して周知しておきたい。	災害時の医療連携
8	・「退院までの準備ガイドブック」の見直し	活用してみて、いくつかの修正案が出ていた。それらを元に、より良いガイドブックに向けて見直す。	地域資源の提供
9	・クリニックと連携している訪問看護ステーションがわかるようなシステムづくり	訪問看護ステーションを探す際に、クリニックが連携しているステーションが分かるシステムがあると調整する時間が短縮できる。	地域資源の提供
10	・病院、訪問看護ステーションの看護サマリーのフォーマットを統一する。	それぞれの施設の看護サマリーは、お互いが必要な項目が盛り込まれていないことが多いため、共通のフォーマットにすれば必要な情報を共有できる。	その他
11	・教育機関が多い文京区ならではの、学生・生徒のボランティアや大学キャンパスを活用した取り組み		普及啓発